２０１５年８月

遠山藤原学校研修

遠山郷でリーダーシップの本質を考える

～型とゆらぎの遠山郷～

８月：遠山郷の山村訪問

～絶景と人情のおもてなし～

研修日程：２０１５年８月２９日（土）・３０日（日）

研修場所：長野県飯田市南信濃地区（遠山郷）

研修主催：　株式会社あえるば（旧社名　シンクタンク藤原事務所）

旅行手配：マツカワ観光バス株式会社

＜１．研修の内容＞

このたびは、2015年８月遠山藤原学校研修の資料請求をしていただき、まことにありがとうございます。遠山郷は長野県の最南端、飯田市の南信濃・上村地方の山深い谷にあり、飛騨の白川郷、越後の秋山郷と並んで、日本三大秘境のひとつと言われています。

国の重要無形民俗文化財に指定されている遠山の霜月祭、神様の湯治場の伝説がある秘境の谷に湧いた天然温泉、遠山温泉郷「かぐらの湯」、日本のチロルと言われる下栗の里、南アルプスの雄大なパノラマを望むしらびそ高原、南アルプスの恵みをたっぷり含んだ名水・観音霊水など、数多くの伝統文化や雄大な自然が残っており、人と自然の本物の共生を体験したい人には、絶対お勧めの地域です。

遠山郷は一言で言えば里山に囲まれた地域です。里山というのは、人が住む里と、人が行かない深山の間にある山のことで、里に暮らす人たちの生活のために手を入れられている山のことです。里山では人と動物、自然が共生していて、本当に日本の原風景とも言えるような姿がそこにはあります。特に戦後の近代化のなかで全国各地の里山が荒廃し、自然の生態系や人との共生生活が崩れてしまった場所が多く、遠山郷も例外ではありません。既に限界集落になっている場所も多い遠山郷では、我々のように外から来た人たちも手伝って、何とか里山を復活し､遠山郷にかつての賑わいを取り戻そうという動きが本格化しつつあります。

８年前から始まった遠山藤原学校は毎年参加者が増えていまして、今年も３月から１１月までの毎月開催です。遠山郷全体でも観光客が増えてきておりまして、大きな観光案内の看板が設置されたり観光客の方がガイドブックを手に街を散策する姿が見受けられたり、遠山郷は今オートバイを乗る方々にとってはメッカのようになりつつあるようで、オートバイに乗るグループが峠を走る姿が多く目にするなど､定点観測のように毎月滞在しておりますと、地元の観光への取り組みの真剣さが最近の大きな変化となって動いているのがよくわかります。

遠山藤原学校研修の今年のテーマは「遠山郷でリーダーシップの本質を考える－型とゆらぎの遠山郷－」です。みんな平均値や中央値を追いかけて日々生きていますが、それが不自然でロボットみたいな人生になる最大の理由です。外れ値や特異値、そしてゆらぎのなかに生命と新しい人生・社会の希望があることを、座学と一期一会を実感していただく体験で実地に学んでいただく研修を行っていきます。

これだけ今までの時代が行き詰り､また新しい時代の気配が感じられているわけですから、どうぞみなさんも新しい２１世紀人としてますます前進していただきたいと思います。この遠山郷は、ゆらぎのある自然、ゆらぎのある人情、まさにゆらぎに満ちています。どうぞ遠山郷の歴史の厚みと豊かな大自然のなかで、同じ繰り返しがふたつとないゆらぎに身をまかせて新しい元気を得ていただき、どんどん流動化する今の時代に、遠山郷を第二の故郷にしていただきたいと思います。

今回の研修でも、学習グループと里山ロハス体験・観光グループの２グループに分け、座学を受けられた方は、遠山藤原学校観光農園で農作業を体験していただいたり、ゆらぎに満ちた遠山郷で一期一会の観光を楽しんでいただきたいと思います。もちろん、再度あるいは再再度と座学を受けていただき、学びを深めていただいても結構です。ご家族でお越しの方でお父さんは勉強、子供さんと奥さんは里山とロハスの体験をと、ご家族それぞれにプログラムをお楽しみいただくこともできます。また里山ロハス体験グループにご参加の方にも学習グループで藤原直哉がお話しした録音を、インターネットからのダウンロードの形で無償提供させていただきます。

まず、１日目は１２時３０分に、遠山郷の中心、和田地区にあります国道１５２号線沿いの道の駅「遠山郷」内の、アンバマイ館という遠山郷観光協会の施設に集合していただきます。電車でお越しの方は、まずＪＲ飯田線の平岡駅までお越しください。東京方面からお越しの方は、東京８時３３分発のひかり５０５号にご乗車いただき、豊橋で飯田線の特急伊那

路１号に乗り換えて、平岡には１１時５７分に到着します。

ＪＲ飯田線の平岡駅から道の駅「遠山郷」内にある**かぐらの湯バス停**までは**乗り合いタクシー**をご利用ください。お１人６００円、所要時間約２０分、特急の到着に連絡していますので、下車後、駅前広場まで階段を下ってください。そこでワンボックスタイプの乗合タクシーにお乗りください。平岡駅の予定発車時刻は１２時１０分、かぐらの湯には１２時３０分に到着です。そしてアンバマイ館はかぐらの湯バス停の目の前です。また自家用車でお越しの方は、中央自動車道の**飯田、松川、飯田山本インターチェンジ**から約１時間です。

アンバマイ館に集合していただきましたら、皆さんに自己紹介していただきます。それから同じ道の駅内にある食堂「**食楽工房 元屋 (げんや)**」で昼食にします。こちらの食堂の自慢は鹿やイノシシの山肉料理で、少しクセのあるお肉を洋食のテイストで上手に調理なさっています。

昼食が終わりましたら、**学習グループ**と**里山ロハス体験グループ**に分かれます。里山ロハス体験・観光グループのみなさんは、遠山郷スタッフが遠山藤原学校観光農園にお連れしますので、そちらで農作業をしていただきます。一方学習グループのみなさんは、和田地区の中心街、江戸時代から伝わる国道 152 号線・**秋葉街道**の宿場町、**和田宿**を散策し、その後**遠山氏**の菩提寺である**龍淵寺**を訪問、隣の**遠山郷土館「和田城」**にて**「一期一会のリーダーシップ」**をご受講いただくというコースをたどります。

龍淵寺は江戸時代に徳川氏に滅ぼされたこの地域の豪族**遠山氏**の菩提寺であり、遠山氏の居城跡に建てられました。その境内に沸く**観音霊水**をいただきます。観音霊水は４百年以上前から湧いているお水で、真夏や旱魃でも枯れずにいつも冷たくておいしい水がコンコンと湧いています。そのお水を近年専門家に調べてもらったところ、**名水のなかでカルシウムやマグネシウムの含有量が日本で最も多い**、すばらしい名水であることがわかり、最近では地元や近郊の方はもちろんのこと、東京や大阪から百リットルも２百リットルもお水を汲みに来る方がおられます。こういう硬水は味にクセが強いことが多いのですが、観音霊水は硬水でありながら大変口当たりがよく、特にコーヒーや紅茶にして飲むとおいしく、また日持ちが大変良いので、非常用のお水としても汲みに来る方が絶えません。また境内には樹齢５百年の**観音大杉**があります。これは根元が一体となった４本の杉で、家族和合のしるしとして、参詣する人が絶えません。さらに龍淵寺には３年前に再建された総けやき作りの立派な**観音堂**があります。このお寺では長くお写経を続けていて、奉納されたお写経がこの観音堂に納められています。光堂と名付けられた観音堂からは和田宿が一望できます。

遠山郷土館「和田城」は遠山郷の郷土資料館で、この地区に数百年前から伝わる国の重要無形民俗文化財、**遠山の霜月祭り**のビデオや複製の面（おもて）、また林業に関する展示、さらには遠山氏の子孫の方が伝えている宝物などを見学します。またここの１階の一部は喫茶店、**カフェ「和田城」**になっていて、目の前の観音霊水で入れた大変おいしいコーヒーが名物となっています。こちらのコーヒーを召し上がっていただきながら、リラックスして研修に臨んでいただければと思います。

たっぷりと農作業あるいはお勉強をしていただいた後は両グループが合流し、遠山温泉郷「**かぐらの湯**」でゆっくりと疲れを癒していただきます。かぐらの湯の源泉は、全国でも珍しい４３度の高濃度塩化物温泉で、体がよく温まり、浴室内で温泉を飲用することもできます。この地域は日本列島を東西に走る**中央構造線**という大断層のために地形が非常に複雑で、地質学的にも謎が多い場所です。この温泉もそういう複雑な地質が生んだ珍しい温泉で、豪快な雰囲気が多くのファンを惹きつけています。

その後、当日のお宿である八重河内地区の「**いろりの宿島畑**」に行きます。ここは遠山郷でも最も人気の高いお宿のひとつです。

お食事は、地元の方々との懇親会を兼ねています。今回も遠山郷の地元のみなさんや他の参加者の方々と、和やかに交流を深めていただきたいと思います。余興もいろいろ出てくるのではないでしょうか。そして島畑自慢の**山肉料理**の数々も絶品ですのでお楽しみに。

また夕食・懇親会後、ご希望の方は地元のカラオケスナック「セラード舞夢（まいむ）」へお連れします。実は毎回、遠山藤原学校はこの二次会の舞夢が大変盛り上がるのです。参加者の皆さんが本当にリラックスして語り合い、歌う姿はとても明るく温かい雰囲気に満たされています。どうぞ遠山郷の夜を舞夢で元気にお楽しみください。

２日目は朝食の後、観光タクシーでまず和田地区へ向かい、観音霊水の隣にある「殿町の茶屋」に行きます。ここは地元の女性が経営しているお饅頭屋さんで、名物のふじ姫饅頭はその日の朝に作って売切れたら終わりという非常に人気の高いお饅頭です。遠隔地から来られる方はどうしても遠山郷に来るのが午後になってしまい、何度来ても売り切れで食べられないという幻の饅頭でもあります。よもぎとそばの２種類の饅頭が８個入って1,000円のふじ姫饅頭は、遠山郷の外はもちろんのこと、遠山郷のなかでもこの殿町の茶屋でしか販売されておらず、ファンが絶えません。さらにここではお店の方がお客さんにお茶やお漬物を接待してくださり、多くの方が地元のみなさんの暖かい人情に触れて感激していかれます。一個一個が手作り、まさに一期一会のお味を楽しんでいただきます。

そして、遠山郷の木沢地区にある、木造校舎の廃校を利用した地域活性化施設、旧木沢小学校に向かいます。旧木沢小学校は、平成３年に休校、平成１１年に廃校となった地元の小学校で、現在に残る懐かしい木造校舎は、昭和７年に地元の人々の情熱によって建てられたものです。そのため廃校後も何とかこの木造校舎を保存し、同時にここを地域活性化の拠点とすべく、地元の有志が木沢地区活性化推進協議会という団体をつくって、木造校舎の維持管理を行っています。校内の教室には遠山の霜月祭り、地元を走っていた森林鉄道である遠山森林鉄道、南アルプスの登山道整備などを行っている遠山山の会、昭和時代の遠山郷の写真などが展示されているほか、藤原直哉の蔵書３千冊を寄贈した藤原文庫もあります。さらにここには年間を通じて多くの方が見学に訪れ、また空き教室を利用した講演会や集会、演奏会、映画会の開催、引っ越しのサカイのＣＭ撮影などが行われていて、まさに地元の方と来訪される方との貴重な交流の場にもなっています。

旧木沢小のすぐ近くには遠山藤原学校観光農園もございます。この農園は廃耕地となっていた畑をお借りして、当社で募った遠山郷ボランティアと地元のみなさんが力を合わせて５年前に開いたばかりの農園で、遠山藤原学校における木沢地区の里山整備の拠点にしようとしている農園です。またここでは２１世紀の肥だめとして注目されている新しい複合発酵技術を使った液肥を作り、散布しています。その様子もご覧いただきます。「遠山郷から日本を変える」という根本理念にふさわしい活動がいろいろと展開されています。

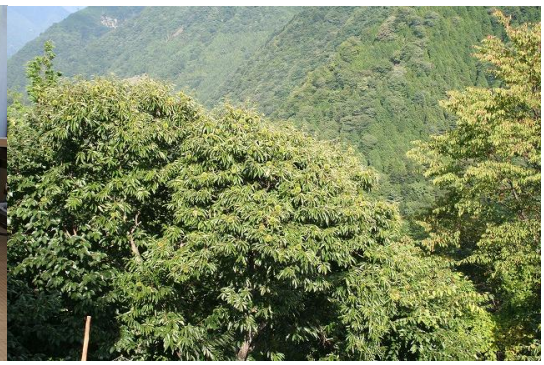
旧木沢小学校に到着しましたら、その農園や液肥プラントをご紹介いたします。その後、校内をご見学いただいてから、藤原直哉講演「遠山郷の観光と地域振興にこれから必要なこと」です。その後「インターネットラジオ公開録音」も行います。火曜日にアップする私のインターネットラジオの番組のうちの１本を皆さんの前で公開録音します。

それから観光タクシーに乗って山道を下栗方面に向けて登り、車を降りていただいて舗装道路を３０分ほど下って、上中根にある熊谷治郎さん宅に伺います。熊谷さんのお宅は南アルプスが目の前に見える絶景の地にあります。中根地区は遠山郷の絶景ポイントとして有名な下栗の里に登る途中にあり、山の中腹を開墾して人々が住んでいる、とても眺めのよいところなのです。熊谷治郎さんは遠山郷でも名高いおもてなしの達人で、今は控えてらっしゃいますが、以前は遠山郷で毎年秋に開かれるマラソン＆ピクニック大会のマラニックでも、ランナーのおもてなしが抜群でした。

熊谷さん宅は、遠山郷でも有数の急斜面にあり、囲炉裏をしつらえたお部屋からは天気が良ければ南アルプスの主峰、聖岳（ひじりだけ）をはじめとした山と谷の絶景をご覧いただけます。下の写真左側は、熊谷さん宅から見た南アルプスの主峰です。真ん中はお宅の周囲に広がる急斜面の畑、そして右側の写真、右端が熊谷治郎さんです。

さらに、熊谷さんのご自宅にある炭焼き釜と、焼き上がった炭、いろりにくべた炭。

そして絶景のお部屋（窓の先は南アルプス）と栗の木です。



その熊谷治郎さんのお宅で食事と少々のお酒で歓談いたしましょう。

午後３時３０分ごろには旧木沢小学校に戻ってきて、午後３時４５分に旧木沢小学校で解散。道の駅「遠山郷」のかぐらの湯までお送りいたします。電車で東京方面にお帰りの方は、かぐらの湯を 16 時 07 分に出る乗合タクシーにお乗りいただき、終点である平岡駅を 16 時 42 分に出る特急伊那路４号で豊橋に行き、豊橋からひかり 530 号に乗り換えて、東京には 20 時 10 分に到着という行程がよろしいかとお思います。

今回も盛りだくさんの内容ですが、縁ある数多くの方々に遠山郷の自然と人情、そしてそのなかで生きる喜びを味わっていただき、遠山郷の里山に遊び、またよく学んでいただいて、遠山郷のファンとなり、２１世紀を明るく元気に生きるための、たくさんの知恵と実力を得ていただきたいと思っています。

この８年間に本当に多くの方々に遠山郷へお越しいただいていますが、リピーターの方がたくさんいらっしゃいます。遠山藤原学校でみなさんのお世話をしてくださる遠山郷スタッフの方々も、最初は遠山藤原学校の参加者としていらっしゃいました。何度もいらっしゃるうちに、スタッフとしておもてなしをする側に回ってくださったのです。遠山郷の持つ一期一会のゆらぎが多くの方々を惹きつけてやまないのです。

一人でも多くの方のご参加を心からお待ちしております。

2015 年 7 月吉日

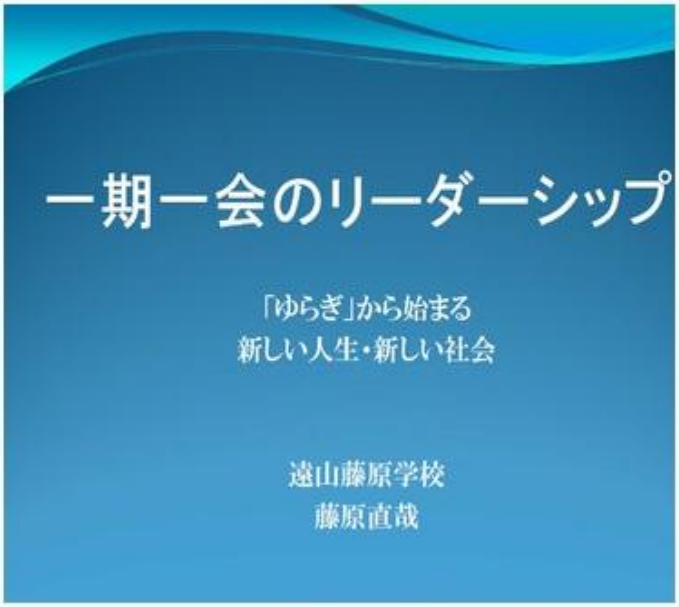
株式会社あえるば（旧社名 シンクタンク藤原事務所）
会長・経済アナリスト　藤原直哉

＜２．一期一会のリーダーシップについて＞

2014年の遠山藤原学校は、「遠山郷から日本が変わる」という根本理念のもと、

『一期一会のリーダーシップ、「ゆらぎ」から始まる新しい人生・新しい社会』

と題したテーマで開催します。



さて、何が始まったのかとお思いかもしれませんが(笑)、一期一会という言葉はご存知だと思います。この言葉そのものは幕末に大老を務めた彦根藩の井伊直弼が自著のなかで使った言葉で、一生に二度とない出会いを大切にする、という意味です。

ちょっと話は変わりますが、織機って知っていますか？布を織る機械です。私が子供のころは地方に行くとよく織機があって、その音が実に心地よくて、よく立ち止まってその音を道端で聞いていました。

今はユーチューブにいろいろな織機の音がアップされています。ここもそのひとつです。

シャトル織機 Shuttle Loom

実にいい音ですね。最初の1分ほど、音だけ録音させていただくとこのようになります。1分聴いてみてください。

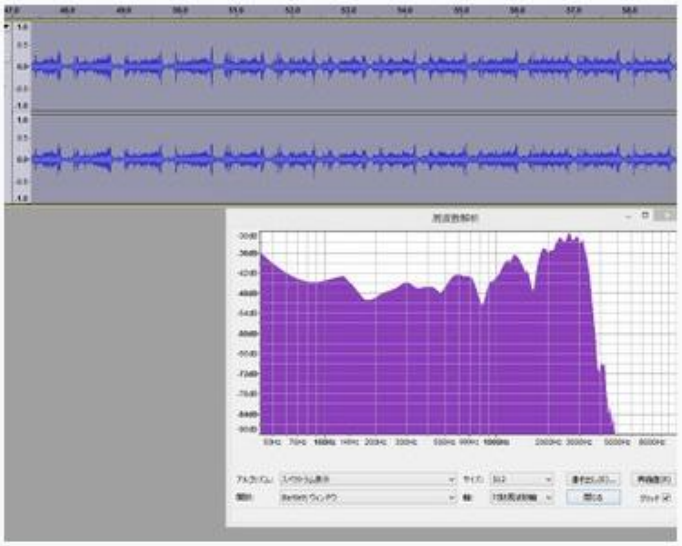
次に、ちょっとこの音を加工させていただいて、次のような音にしてみました。これをまた1分聴いてみてください。

どちらが良いでしょうか。私が聴くと、最初の音は自然ですが、2番目の音は何か耳にしっくりこないというか、ちょっといらいら感が募るような音です。

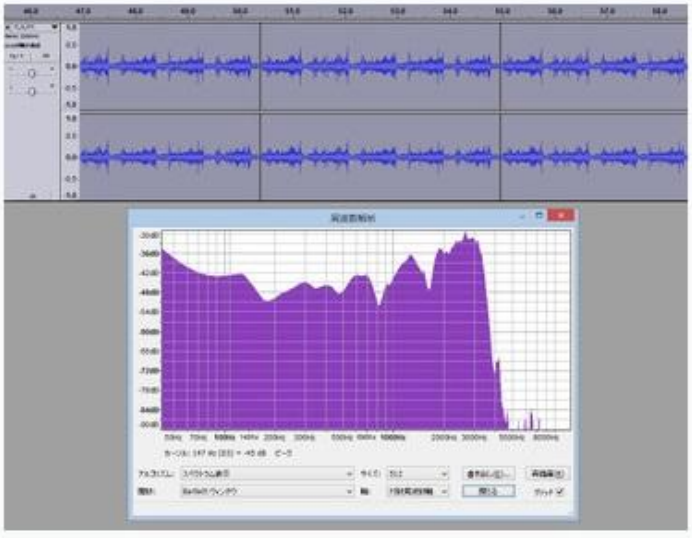
実は2番目の音は、1番目の音の最初の5秒ほどを録音して、それを繰り返し何度も再生させているだけなのです。

織機ですから機械が回転運動、往復運動をしています。したがって音も周期的になるはずだから、同じ音を繰り返せば十分ではないかと考えてしまいます。

ところが違うのです。同じような繰り返しの音に見えても、実はその音の波形をよく見ると、1回のカシャンごとに結構波形が違うのです。下の写真はステレオで録音した音の時系列での波形と、下はそれを周波数領域で表したものです。



そしてこれが最初の5秒間の音の繰り返しです。周波数領域での波形もとてもよく似ていますが、実際に聴いたときの感じ方はだいぶ違います。



すなわち、世の中には単調に繰り返されているようにしか見えないものがありますが、実は自然は偉大で、どんなに繰り返しがあるように見えても、同じものは決してふたつとないのです。

我々はデジタル時代に慣らされて、何でもコピー・ペイスト(複写・貼り付け)で物事を済ます癖があります。しかしこれは自然の姿とは決定的なところで違うようです。

それは見聞きした感じは一見して同じですが、長く接するとその違いがどんどん浮かび上がってきて、やがてコピー・ペイストでは堪えられなくなってしまうのです。

これも、偽物と本物の違いであり、自然はすべて、一期一会なのです。決して同じ繰り返しはふたつとないのです！

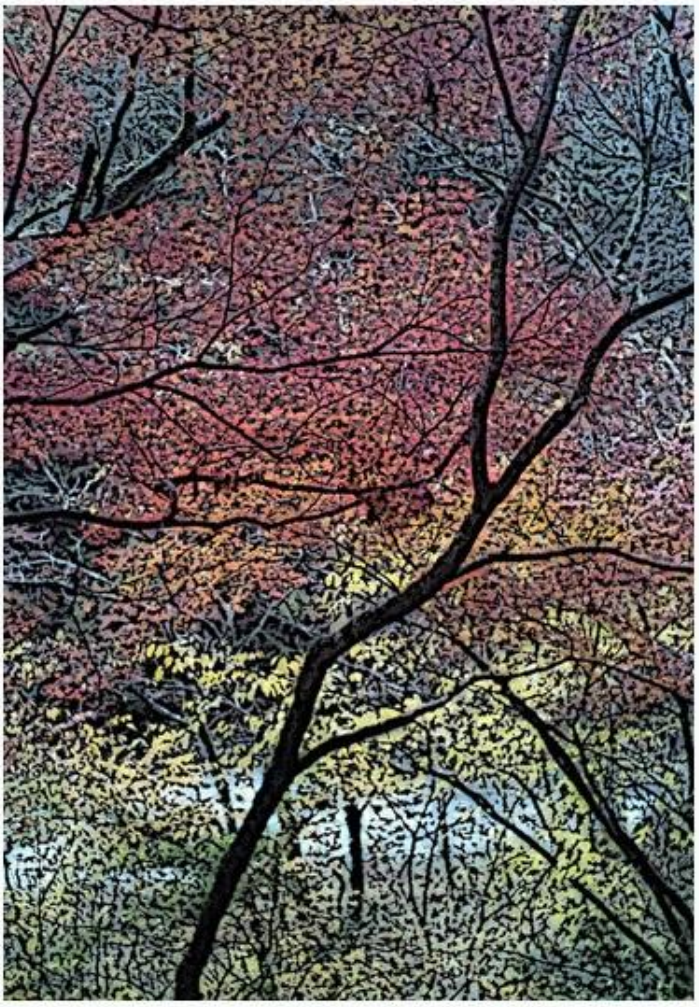
ふと気が付くと今の我々は大量生産、デジタル化のなかで、自然の一期一会を忘れてしまい、それがどこかで我々の生命力を減退させてしまっているような気がして仕方がないのです。

織機の音のように、規則性があるのにゆらぎがあるというのは、自然界でよく見られることです。

たとえば下の紅葉した木。これは遠山郷で撮影したもみじの写真です。

この写真を画像ソフトで処理して輪郭と色の変化を強調させてみます。

すると輪郭は複雑であり、色もたくさんの中間色があることがわかります。もみじの葉と木はどこでも同じように思えるので、ひとつのもみじの形を作って、それをコピーしてつなぐと、恐らくまったく趣が出ないでしょう。どこを見てもふたつとないゆらぎが入っていると思われるからでです。



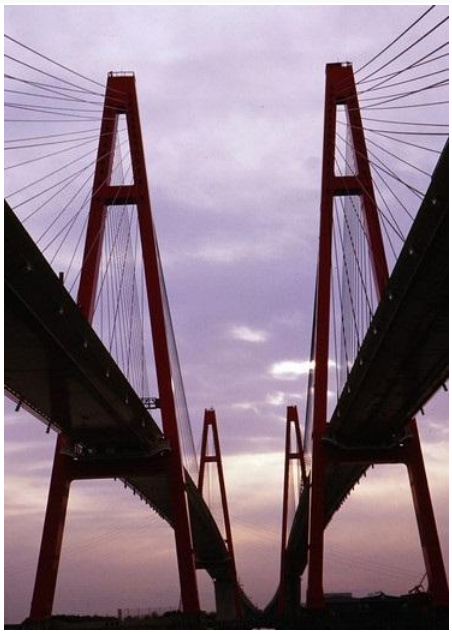
あるいは遠山郷にある旧木沢小学校の校舎。

これも同じように輪郭と色の変化を際立たせてみます。すると輪郭は単純な直線で組み立てられているのではなくて微妙に曲がっていて、また色もたくさんの中間色があることがわかります。

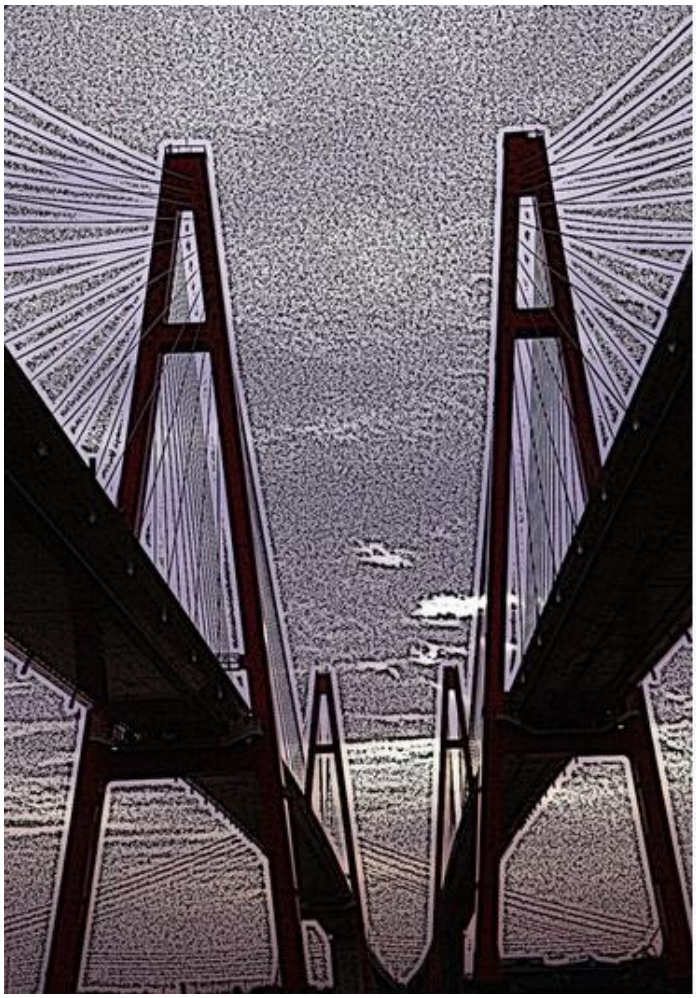
一方、大都会の高層ビルの写真を見てみます。

同じように輪郭と色を強調するとどうでしょう。規則性が強くみられる反面、ゆらぎがほとんどないことがわかります。むしろゆらぎがあるのは空の色で、大都会で空を眺めるとホッとするというのも理由がありそうです。

あるいは大きな橋です。



これも輪郭と色の変化を強調してみます。するとはやはり橋そのものにはゆらぎはなく、あるのは空のゆらぎです。



こうしてみてくると、田舎の景観は大都会の景観と比べてゆらぎが多そうです。そしてこのゆらぎの多さが、実は人の気持ちにとても良い働きをして、だから田舎の景観を見るとホッとするということがあるのではないでしょうか。

でもしかし、田舎、大都会と言ってもその基本は規則性の周りにゆらぎがあるかないかです。ですから本当は大都会でもゆらぎのある景観を作ることは大いに可能なはずです。

しかしそれはおそらくコンクリートや鉄でできた今のような構造物を並べることでは無理だと思われ、都市計画や都市を作る材料をゆらぎのある世界と素材に抜本的に直す必要があります。

さらにゆらぎは教室のなかにもあります。

下の写真は遠山藤原学校で講義をする時に使わせていただいている旧木沢小学校2階の教室です。とても趣があり、長くいても疲れない部屋です。

この写真もまた画像ソフトで輪郭と色の変化を強調してみます。輪郭にも色にもゆらぎがたくさんあります。

一方これは、東京大学教養学部(駒場)にある昔ながらの教室です。

輪郭と色の変化を強調してみると、ゆらぎは少なそうです。果たしてどちらの教室のほうが学生にとって心地よいでしょうか。

何か生命感の高い生活、勉強、仕事をしようというときに、今のような効率一点張りで、景観としても規則性ばかりでゆらぎがない空間というのは、これからの時代にはかえって「貧しい」ことかもしれません。

たとえば次のつり橋の写真を見てください。遠山郷にかかる、あるつり橋です。踏板が木でだいぶゆらいでいて、風情はありますが、ちょっと危なそうでもあります。

一方、これは遠山郷の市街地です。立派な舗装道路です。安全そうですが風情はありません。

さて、どちらがよいのでしょうか。風情はあるけれど危なそうな道、風情はないけれど安全な道。

実はこれは二律背反ではないのです。風情はあるけれど安全な道は作れるのです。すなわち、つり橋の踏板を、新しい板に交換すればよいのです。木は新品でもアスファルトに比べればゆらぎがあって風情がありますし、時間が経つと急速に色が変わっていき、風情が増します。そして強度に問題が出るぐらいまで劣化してきたら、新しい木に交換すればよいのです。

下の写真もそうです。遠山郷の熊野神社です。風情のある木の鳥居です。でも何となく倒れそうな予感がします。そうしたら、二度と倒れないようにということでコンクリや金属の鳥居にするのではなくて、また木の鳥居を建て直せばよいのです。

お宮も老朽化が進んだら、また木のお宮に建て替えればよいのです。

遠山郷にも鉄で鳥居を作ったお宮があります。ところが錆びてくると帰って風情がなくなりますし、もっと錆びると突然折れて倒れる可能性があります。

錆びる鳥居を作るくらいなら、もう少し張り込んで、石の鳥居にしたほうが風情があるかもしれません(静岡県浜松市水窪の山住神社)。

こうしてみてくると、伊勢神宮や出雲大社で定期的に遷宮をするというのは大変意味のあることだということがわかります。お宮が新調された時は新鮮な美しさがある。一方建て替え間際には成熟した美しさがある。そして建て替えることによって材木の需要が生まれて森林整備が職業として成り立つようになり、職人の技も継承され、人々は常にゆらぎのある心地よい空間に安全に住むことができる。

もし、旧木沢小学校の老朽化が進んだらどうすればよいのか、また木で立派な学校を建てればよいのです。それが、これからの時代の「豊かさ」ではないでしょうか。

しかしゆらぎが大切だからと言って、木や石で作れば何でもよいというわけではありません。

たとえば下の写真を見てください。木で作られた建物です。何か不自然ですね。やはり景観にはデザイン、型があって、型からあまりはずれたものはたとえゆらぎがあっても美しいとは思えません。景観に型は大切です。見て美しいかどうかは人が実際にどう思うかですから、葛飾北斎の富嶽三十六景や歌川広重の東海道五十三次のように、多くの人が見て違和感のない景観がよいと思います。

おそらくディズニーランドもまず最初に芸術家が絵を描いて、それに合わせて建物を建てていったのでしょうから、都市計画も最初に芸術家が絵を描いて、それに合わせて建物や道を作ったほうがよいのではないでしょうか。

しかし、たとえどんなに不自然なものでもずっと朽ちていって、ほとんど土にかえりそうになるぐらいまでいくと、それまでゴミに見えていたものが自然の一部のように見えてきます。下の写真は遠山郷の廃村跡に残っていた廃車です。

よく山のなかの廃線跡や廃村跡を探訪する人がいますが、こういう面白さなのでしょう。

下の写真は遠山郷に残っていた旧秋葉街道と、沿道の石垣です。今から60年ぐらい前までは、このあたりも多くの人や馬が通り、たくさんの家があって、人々がにぎやかに生活していました。

自然は偉大なもので、人がどんなに不自然なことをしても、やがて自然に戻してしまうのです。そして不自然な型は消滅し、土や石は残ります。

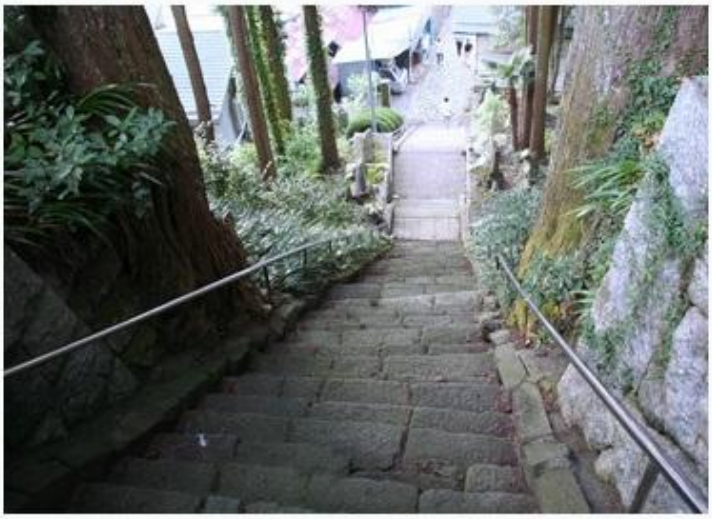
一方、下の写真の左側のお家。確かに木造の風情のありそうな建物ですが、散らかっていて、美しさがないですね。

ゆらぎは大変微妙なもので、人工的で不自然な規則性が色濃く残っていると、そこにゆらぎが入るとかえって汚く見えます。ごみの埋め立て地の光景がそうですし、片付けの悪い、掃除の行き届いていない景観がそうです。

ですからやはり景観には「お手入れ」が常に必要です。

またゆらぎのある光景と、ない光景の混在にも注意が必要です。下の写真はお寺の参道の階段です。上のほうが手で石を積んだ昔の階段、下のほうが現代に作り直したコンクリートの階段です。また手すりは石の階段のところにステンレス製がついています。

景観を考えていろいろ工夫することは可能でしょう。



それからもう一度、上の旧秋葉街道の写真を見てください。道は曲がっていますね。多くの昔の道は曲線から構成されていて、直線が長くどこまでも続くことはまずありません。

実は自然もそうで、たとえば水は流れ下るときに自然に曲がり、自然にムラができます。整然とまっすぐ上から下に落ちてこないのです。このことは不思議ですらあります。

ですから景観においても効率だけを考えた直線や、一定の曲率の曲線を多用すると不自然になってきます。むしろ逆転の発想で自然のアップダウンや山谷を生かしたインフラのほうが「豊か」ではないでしょうか。

さて、こうしてみてくると、自然の奥深さがよくわかります。ここまでの考察を整理すると以下のようになります。

1、自然には型がある
2、型に合ったものは違和感がない
3、自然にはゆらぎがある
4、ゆらぎは懐かしい、美しい、命を感じる
5、型とゆらぎが合わさった現実は決して繰り返しのない一期一会である

すなわち人はまず型を学び、何度も何度も型を繰り返す。ところがそれは単なる規則の繰り返しではなくて、ゆらぎが入ることで毎回毎回が一期一会であり、そこに生命の源を感じる瞬間がやってくる。だから人はどんなに単調な人生に見えても、死ぬまで一期一会の幸福を得ることができる。

どうでしょうか。そういう精神と戦略に則って自分と人をリードしていくのが一期一会のリーダーシップです。これが再生後の日本を運営する最も重要なリーダーシップであり、これこそまさに健康と持続可能性の高い生活そのものと言っても過言ではありません。

莫大なエネルギーを使う今の生活から見れば、健康で持続可能性の高い生活は単調でつまらないように見えるかもしれません。しかしそれが本当はまったく反対なのです。むしろ今の生活のほうがゆらぎなくて単調で生命を感じず、人工的で不自然な規則性に満ちていて汚いのです。だから、やはり続かないのです。

そしてこの5つに加えてもうひとつ大変大事なことがあります。それは、遠山郷でお話しします。

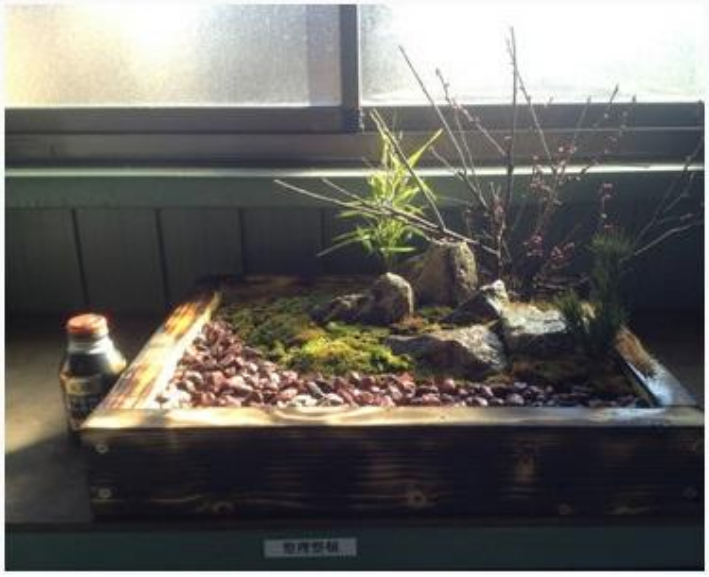
実際に今年の研修では遠山郷で座学のほかに、一期一会を実感していただく体験を行います。それはお茶会への参加であったり、里山や廃村の散策、あるいは専門家の指導による「一期一会のお庭づくり」など、まだまだいろいろとメニューをそろえるつもりです。

では、「一期一会のお庭づくり」とはどんなものか、次にご紹介しましょう。

今年は、遠山藤原学校研修中に3時間ほどで作れるお庭を、みなさんに作っていただきます。指導するのは造園業が専門の遠山郷スタッフ、久志公洋さんです。

まず完成したお庭の見本は下の写真のようになります。大きさがわかるようにコーヒー缶を置いてあります。

これが一期一会の箱庭、題して『松竹梅』です。



先ほどと同じように輪郭と色を強調してみます。ここには型とゆらぎが輪郭と色の両方に入っています。

では一期一会の箱庭、『松竹梅』の作り方をご紹介します。

まず2×4の木材を1本用意します。

そしてお好みの寸法に切断して、ビス止めして箱を作ります。
それからそれだけでは味気ないので、ガスバーナーで焦げ目をつけます。

こんな感じに仕上がります。

焦げ目をつけたら、箱の底にビニールを張りつけ土がこぼれないようにします。ビニールはビス止めです。

次にいよいよ作庭です。客土を入れ築山を作ります。使用したのは軽量な市販の培養土です。これで築山を作り、石をのせて岩を組みます。石は遠山郷で各自拾っていただきます。

ここでの基本は石組みの中心はお庭のど真ん中に来ないようにすることです。

石組みができたら、植栽です。遠山郷で各自みつけた小枝などを切ってきます。

植栽といっても枝を土にさすだけです。

今回のテーマは『松竹梅』ですから、松・梅・竹を石組みにバランスよく配置します。

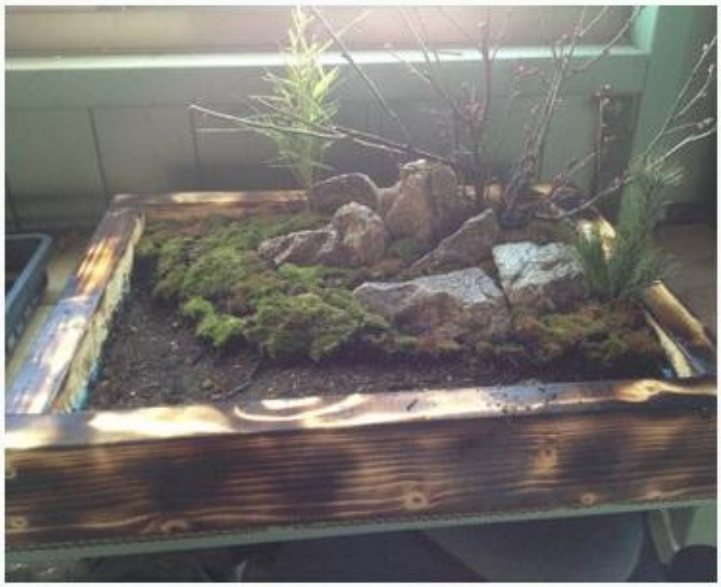
植栽の次はいよいよ仕上げ作業です。

まず、苔を調達します。付近の側溝の脇などでよく見かけます。

ゴミ等を掃除して、霧吹きなどで水分を与えると生き返ります。

こうして少しずつ割って貼付けていきます。

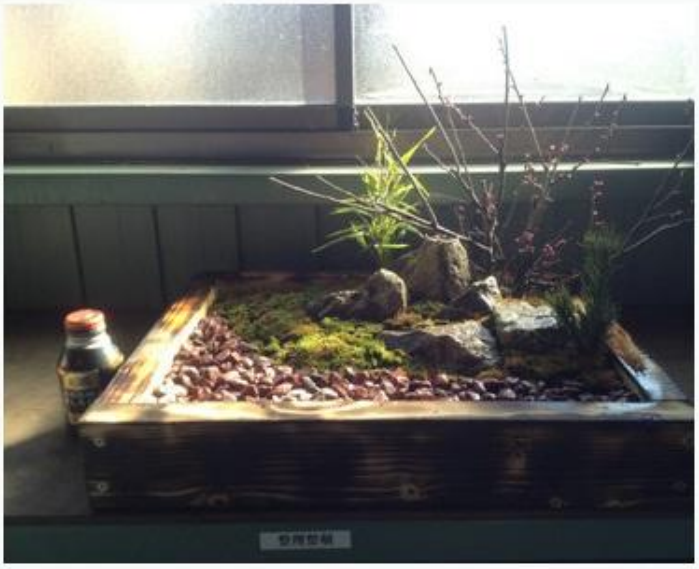
こんな感じです。どうです？側溝の脇にあったときはあんなに汚かったのに、奇麗でしょう！



次はいよいよ総仕上げの砂利敷きです。今回はたまたま在庫で持ち合わせていた赤色の玉砂利を使用しました。

最後は霧吹きで水をかけて奇麗にして完成です。

一期一会の箱庭、『松竹梅』



いかがでしたでしょうか。研修では同じものを作るのではなくて、季節に合わせ、それぞれにイメージをもって専門家の指導のもとに作庭していただきます。

こうして、決してふたつとない自分だけの庭を、自然の中から自分で作ることができれば、それは自分自身にとっても大きな前進になります。型とゆらぎです。

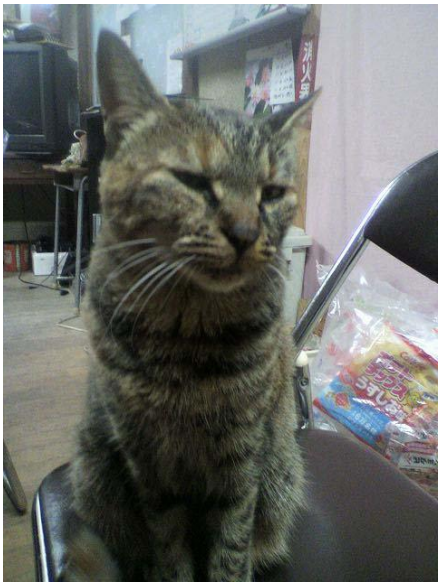
詳しい日程等は本ブログ等で順次公開していきますので、どうぞこの機会に南信州遠山郷で一期一会のリーダーシップを勉強されてください。

＜3．研修日程表＞

８月２９日（土）

時間	予定		写真
12：30	集合	**道の駅「遠山郷」内、アンバマイ館に集合** 研修の説明と参加者の自己紹介、スタッフ挨拶	 アンバマイ館
12：45	昼食	道の駅「遠山郷」内の食堂「元屋」にて	
13：30	出発	**学習グループ** 和田地区内を散策 和田宿、龍淵寺、遠山郷土館、カフェ「和田城」など	
13：30	出発	**里山ロハス体験グループ** 木沢地区に向けて車で出発	 龍淵寺
13：45	到着	旧木沢小学校到着	
	実習	遠山藤原学校観光農園にて農業体験	
15：00	学習	**学習グループ** 遠山郷土館内、会議室にて学習 「一期一会のリーダーシップ」	 かぐらの湯
17：00	出発	**里山ロハス体験グループ** 作業終了。「かぐらの湯」へ	
17：15	出発	**学習グループ** 1 日目の学習終了。「かぐらの湯」へ	
17：30	到着	遠山温泉郷「かぐらの湯」で入浴	
18：30	出発	今日のお宿、いろりの宿島畑へ車で出発	 和田城
18：40	到着	島畑到着、チェックイン	
19：00	夕食	島畑にて夕食、懇親会	
21：00		懇親会終了。二次会希望者は「舞夢」へ	
21：10		「舞夢」でカラオケ二次会	
		朝夕は冷え込みますので薄い上着をお持ちください。	 遠山川の清流
		・ **農園作業をご希望の方は、帽子、軍手、汚れてもよい作業着をお持ち下さい。長靴は当方で用意します。**	

８月３０日(日)

時間	予定		写真
7：00	朝食	いろりの宿島畑にて	
7：50	出発	殿町の茶屋に向けて車で出発	
8：00	到着	和田地区の観音霊水、殿町の茶屋	
8：15	出発	旧木沢小学校に向けて出発	
8：30	到着	到着後、遠山観光農園、複合発酵装置見学	
			殿町の茶屋
9：00	講演	藤原直哉講演 「遠山郷の観光と地域振興に これから必要なこと」 および、インターネット放送公開録音	
			旧木沢小学校図書室
11：00	出発	熊谷治郎さん宅に向けて車と徒歩で	
12：00	到着	熊谷治郎さん宅。昼食、懇談。	
14：30	出発	旧木沢小学校へ向けて出発	
15：30		旧木沢小学校に到着	
15：45	解散	旧木沢小学校にて解散	
			旧木沢小学校
		電車でお越しの方、お車でお越しの方は、道の駅「遠山郷」内、「かぐらの湯」までお送りします。 乗合タクシーの「かぐらの湯」出発は 16：07、豊橋方面行特急の平岡出発は 16：42 です。 ・ **斜面を歩きますので、動きやすい服装でお越しください。** ・ **観音霊水を汲んで帰られる方は、別にペットボトルやポリタンをご用意下さい。**	
			旧木沢小学校のネコ校長 高嶺ちゃん

＜４．研修費用＞（消費税込み）

大人　１名	３０,８５７円
学生（大学生・専門学校生以下、中学生以上）　１名	１５,４２９円
子供（小学生以下）　１名	１０,８００円

なお、お食事とお布団、バスの座席の事前のご用意が必要でない乳児は無料です

（上記は全て税込です。）

（1）研修費用に含まれるもの

・宿泊料金	原則として相部屋です。ご家族での一部屋でのお泊りはできる限り配慮させていただきますが、保証はできませんのでご容赦ください。宿泊は、 いろりの宿　島畑 〒399-1312　長野県飯田市南信濃八重河内５８０ TEL 0260-34-2286　FAX 0260-34-2281
・食事料金	日程表に記載された昼食２回、夕食および懇親会１回、朝食１回 （なお子供料金にてご参加の方は、１日目の夕食がお子様定食になります）
・入浴料 ・入館料 ・講演料 ・ガイド料 ・管理料 ・鉄道・バス費用 ・旅行保険料	日程表に記載された施設での入浴料、入館料、講演料、ガイド料、旧木沢小学校管理料、日程表内の貸切バス交通費、下記旅行保険料は研修費用に含まれています。
・研修講師	株式会社あえるば（旧社名 シンクタンク藤原事務所）藤原直哉
・旅行保険	（限度額お一人様死亡障害１千万円）

（2）研修費用に含まれないもの

・　個人的性質の費用	タバコ、洗濯、電報電話、お酒・ジュース等の飲み物、お土産、個人の飲食などは個人負担をお願いします

＜５．旅行手配＞

マツカワ観光バス 株式会社	〒399-3304 長野県下伊那郡松川町大島 1909-2 〈本社/営業所〉 TEL：0265-36-2345（代） FAX：0265-36-6060 総合旅行業務取扱管理者：松村 康文	長野県知事登録旅行業　： 第 3-442 号 社団法人全国旅行業協会正会員

＜６．研修要領＞

<table>
<tr><td>募集人員</td><td colspan="2">２０名
なお、先着順にお申し込みをお受けし、定員になり次第締め切ります。
参加申込書をマツカワ観光バス株式会社宛てにお送りください（FAX または郵送でお願いします）</td></tr>
<tr><td>研修代金</td><td colspan="2">2015 年 8 月 21 日（金）までに、研修代金の全額を以下の口座へお振込みください。
八十二銀行　松川支店
ハチジュウニギンコウ　マツカワシテン
店番号　５８１
口座番号　普通口座　２７６８０２
口座名義　マツカワ観光バス株式会社
マツカワカンコウバス（カ</td></tr>
<tr><td>取消料</td><td colspan="2">お申し込み後、お客様の都合でお取り消しになる場合、当方の手続きを開始または完了している場合は、次の取消料を申し受けます。</td></tr>
<tr><td></td><td>開始日の前日より起算してさかのぼって 20 日目以降</td><td>参加費用の 20%</td></tr>
<tr><td></td><td>開始日の前日より起算してさかのぼって 7 日目に当たる日以降</td><td>参加費用の 30%</td></tr>
<tr><td></td><td>出発日の前日</td><td>参加費用の 40%</td></tr>
<tr><td></td><td>出発日の当日</td><td>参加費用の 50%</td></tr>
<tr><td></td><td>研修開始後又は無連絡不参加の場合</td><td>参加費用の 100%</td></tr>
<tr><td>研修主催（お問い合わせ）</td><td colspan="2">株式会社あえるば
〒250-0011　神奈川県小田原市栄町 2-13-12　ASUKA ビル 2F
電話　０４６５－４４－４７５０
FAX　０４６５－４４－４７５１

電子メール　iwamoto@aeruba.co.jp
担当　岩本寛（いわもと　ひろし）

<u>なお、当日の緊急連絡は、岩本寛の携帯電話へお願いします。
０８０－９２１４－０５６３</u></td></tr>
</table>

＜７．研修概要＞

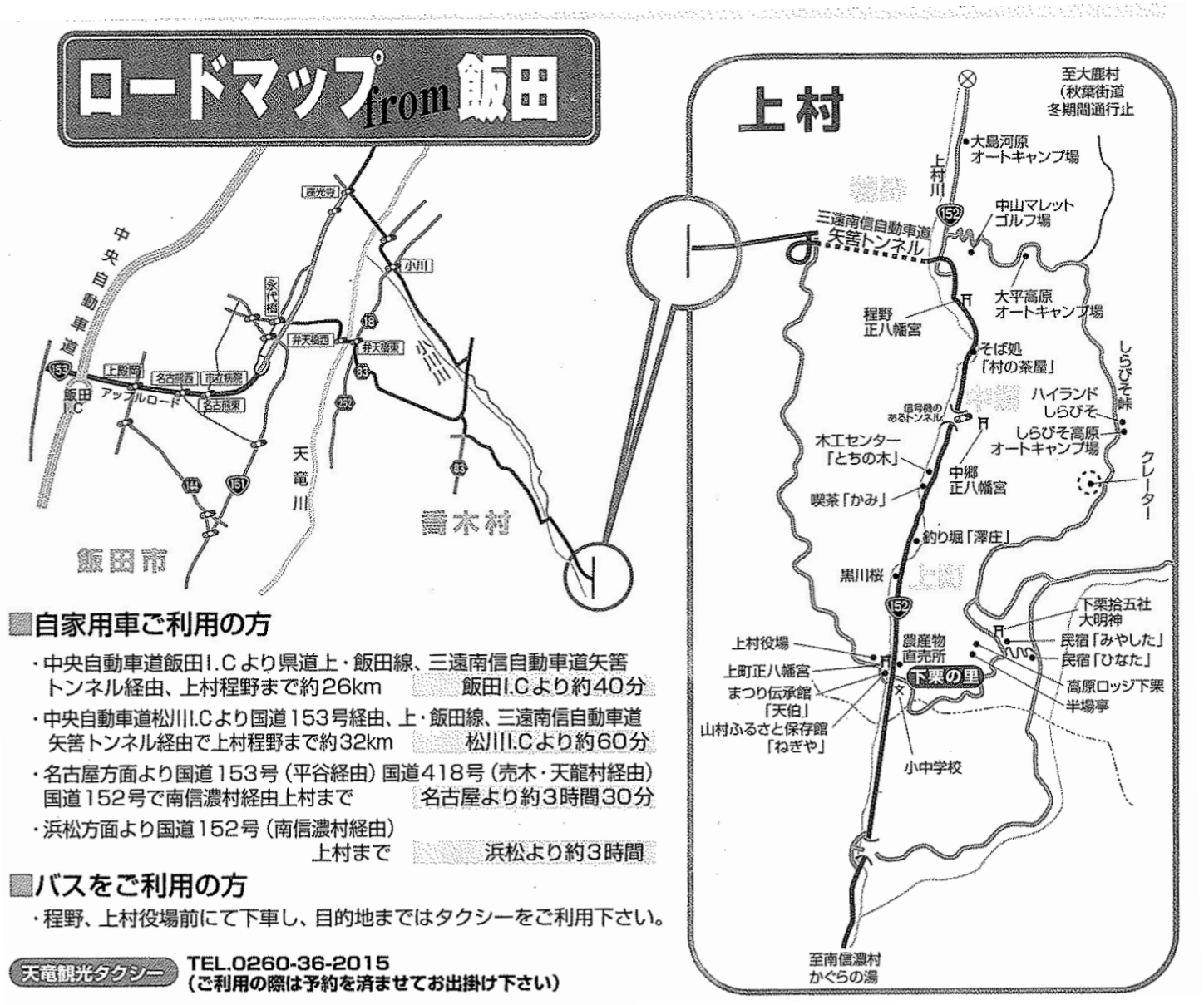
・ 研修名称	2015 年 8 月　遠山藤原学校研修
・ 日時	2015 年 8 月２９日（土）・３０日（日）の２日間
・ 研修場所	長野県飯田市南信濃地区および下伊那郡
・ 集合・解散場所	集合： 8 月 29 日(土) 12：30　道の駅「遠山郷」内、アンバマイ館 解散： 8 月 30 日(日) 15：45　旧木沢小学校 なお、当日の緊急連絡は、岩本寛の携帯電話へお願いします。 ０８０－９２１４－０５６３
・ 研修内容	各種見学、体験、講演、学習など
・ 研修講師	株式会社あえるば(旧社名 シンクタンク藤原事務所 藤原直哉 および地元、学校スタッフ

＜８．現地集合・解散場所まで／からの自家用車、電車での交通手段（ご参考）＞

（1） 自家用車でお越しの場合	集合場所： 長野県飯田市南信濃和田　548-1　道の駅「遠山郷」内、観光案内所「アンバマイ館」(かぐらの湯バス停目の前) （電話 0260-34-1071） 中央高速道　飯田、松川インターチェンジから約１時間 中央高速道　飯田山本インターチェンジから約１時間 新東名高速道　浜松浜北インターから、 兵越峠経由で約２時間
（2）電車でお越しの場合	東京方面から （行き） 東京　8:33　ひかり 505 号　豊橋　9:57 豊橋　10:08　特急伊那路 1 号　平岡　11:57 下車後、かぐらの湯まで乗合タクシーで 20 分 お一人６００円 （帰り）旧木沢小学校からかぐらの湯まで車で 10 分、 かぐらの湯から平岡駅まで乗合タクシーで 20 分 平岡　16：42　特急伊那路４号　豊橋　18：31 豊橋　18：45　ひかり 530 号　東京　20：10

＜９．注意事項、および持ち物など＞

- 里山ロハス体験グループの方は農園作業を行いますので、運動靴、汚れてもよい作業着、軍手、帽子をお持ち下さい。農作業用の長靴は当方で用意します。
- 朝夕は冷え込みますので、薄手の上着をお持ちください。
- 坂道を歩きます。歩きやすい服装をお持ちください。
- 観音霊水を汲んで帰られる方は、別にペットボトルやポリタンをご用意下さい。
- 山道のため、自家用車の運転や乗り物酔いにはくれぐれもご注意ください。
- なお、携帯電話は、電波が届かない場所があります。



営業案内
貸切バス事業 一般貸切、各種送迎
小さなグループから団体旅行まで
旅のガイド付、地域観光案内
旅行事業 海外旅行、国内旅行
一度行ってみたかった話題の観光地
ご希望に応じたコースの企画・見積と
手配・ご案内をさせて頂きます

4列20人乗りサロン車

マツカワ観光バス株式会社
本社／営業所 TEL 0265-36-2345（代）
FAX 0265-36-6060
〒399-3304 長野県下伊那郡松川町大島1909-2
一般旅客運送業 北信交旅第813号
長野県知事登録旅行業 第3-442号
社団法人 全国旅行業協会正会員

4列21人乗りサロン車

＜１０．観光タクシー運行＞

アップルキャブ南信州タクシー有限会社
〒395-0153 長野県飯田市上殿岡 717-4　TEL 0265-28-2800

申　込　書

２０１５年８月　遠山藤原学校研修　　８月２９日・３０日　　ご記入日：　　年　　月　　日

選択してください　　**・自家用車ご参加**　　**・電車でご参加**

フリガナ		性別	男　・　女
お名前		生年月日	明・大・昭・平（西暦　　年） 年　月　日（満　歳）
弊社お客様番号（おわかりになる場合）			
フリガナ		性別	男　・　女
お名前	続柄	生年月日	明・大・昭・平（西暦　　年） 年　月　日（満　歳）
フリガナ		性別	男　・　女
お名前	続柄	生年月日	明・大・昭・平（西暦　　年） 年　月　日（満　歳）
フリガナ		性別	男　・　女
お名前	続柄	生年月日	明・大・昭・平（西暦　　年） 年　月　日（満　歳）

■ご連絡先について

□ご自宅　□会社・学校　※どちらかにチェックをおつけください。			
会社名 学校名等	※ご連絡先が「会社・学校」の場合にご記入ください。 部署：　　役職：		
ご連絡先 住　所	〒　　－		
TEL	(　　)　　－	FAX	(　　)　　－
携帯電話	緊急時　連絡可・不可		
電子メール	@		
喫煙の有無	□　有 □　無 ※部屋割りの参考にさせていただきます。		

選択してください

●参加グループごとに人数をご記入ください。
（別れてご参加の方はそれぞれに人数をご記入ください）
●お肉を召し上がられない方は丸印をおつけください。
●その他ご希望等ございましたらご記入ください。

学習グループ　大人　　名　子供　　名
里山ロハス体験グループ　大人　　名　子供　　名
お肉なしを希望

↑ＦＡＸ送信先：０２６５―３６―６０６０↑

（マツカワ観光バス株式会社）

切り取り